

時間割コード	G2B60206	開講年度	2026				
授業題目	手話言語とろう文化入門					担当教員	上嶋 太
英文授業名	Learn about Japanese Sign Language and Deaf Culture						鳥羽 啓子
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 7 1 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
備考							
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学D P						
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力					⇔	①きこえない人（ろう者、難聴者など）についての理解を深め、ともに暮らす社会の一員として合理的配慮を考えることができる。 ②手話に親しみ、初歩的な手話表現や読み取りができる。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	きこえない当事者として、社会への課題提起や意識改革を訴えてきた経験から、聴覚障害について、きこえない人の生活やコミュニケーション、教育、防災などについての講義を行う。また、手話指導者としての実績をふまえ、手話言語の成り立ちや文法についての解説と表現や読み取りの演習指導を行う。						
(5)授業のキーワード	コミュニケーション 人権 グループワーク 実務経験						
(6)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 （対面授業）あいさつ （講義）聴覚障害とは 第3回 （対面授業）名前の表現 （講義）ろう文化とは 第4回 （対面授業）形、大きさをあらわす （講義）情報保障とは 第5回 （非同期型オンライン授業）障害者の福祉と災害 第6回 （対面授業）好きなもの／嫌いなもの （講義）合理的配慮とは 第7回 （対面授業）数の表現 （講義）指文字の成り立ち 第8回 （対面授業）家族の紹介 （講義）手話の方言 第9回 （非同期型オンライン授業）ろうあ運動ときこえない人の福祉 第10回 （対面授業）場所をたずねる （講義）手話の文法（CL） 第11回 （対面授業）一日のことを話す （講義）手話通訳とは 第12回 （対面授業）スポーツ／趣味 （講義）ろう通訳について 第13回 （非同期型オンライン授業）手話言語の仕組み 第14回 （対面授業）接客で使う手話／指文字を使ってみよう 第15回 （対面授業）（講義）手話施策推進法とは 授業アンケート（最後の15分で実施） 第16回 期末試験						
(7)成績評価の方法	授業中の小テスト（12回）、レポート提出（3回）、動画提出（1回）、期末試験（読み取りと問題への回答）で評価する。 ・対面授業で小テストを実施（12回）：12点 ・非同期型オンライン授業でレポート提出（3回）：30点 ・手話表現の動画提出（1回）：20点 ・期末試験（映像表現の読み取り）：10点 ・期末試験（全講義の内容を範囲とした問題出題）：28点						
(8)成績評価の基準	【小テストの評価の基準】 授業目標②の達成度を測るため、次の基準で評価する（1点×12回）。 映像の表現者の表現を8割以上読み取れているか。 【レポートの評価の基準】 授業目標①の達成度を図るため、次の基準で評価する（各10点×3回）。 問題の設定が適切である（2点） その背景を説明できている（2点） その問題に対してどのような課題があるのかを指摘できている（2点） 解決方法等が提示できている（2点） 自分の見解を述べるできている（2点） 【動画の評価の基準】 授業目標②の達成度を測るため、次の基準で評価する（20点）。 あいさつの表現ができている（1点） 名前の自己紹介が手話、指文字双方を使ってできている（2点） 誕生日もしくは生まれ年、年齢、時間など数字を組み合わせた短文が表現できている（2点） 自分の趣味や好きなものの紹介ができている（2点） 自己紹介に続けて、自分の作った短文が表現できている（3点） 【期末試験の評価の基準】 授業目標①②の達成度を測るため、次の基準で評価する。 映像の表現者の手話が読み取れているか（10点） 聴覚障害／ろう文化／福祉に関する知識について理解できているか（16点） 合理的配慮に関する知識について理解できているか（4点） 手話言語およびその課題について理解できているか（8点）						

(9)事前事後学習の内容	この授業では、事前学習は特に不要であるが、授業に出席し、演習や講義で取り上げられた内容について、事後学習をしっかりと行うこと。特に演習内容は、次回の授業時に小テストとして出題するので、手話表現が自分の中で定着できるよう練習を繰り返すこと。 手話は言語であるので、授業で取り上げた例文や単語はもとより、例文の単語を入れ替えて自分の話したい短文にして練習することで上達につながる。そのためには、知りたい単語を指定参考書の「手話辞典」で調べて表現の幅を広げる努力をすること。また、手話イラストの手の動きがわかりづらいときはインターネット上の動画を探して確認するなどの工夫もあるので参考とされたい。
(10)履修上の注意	当該授業では教科書は特に指定していないが、自分の表現の幅を広げるため、参考図書として指定の手話辞典を手元に置いて、気になる単語があればすぐに調べるようにすることが望ましい。 講師は手話で話そう者である。授業では手話通訳者が通訳するが、授業中は耳で聞くだけでなく手話を直接目で見て理解するよう努力されたい。 対面授業では、授業の冒頭で小テストを実施するので、時間に遅れないこと。
(11)質問,相談への対応	メールで受け付ける。授業の終わりに短時間であれば直接質問を受け付ける。 メールアドレス：kamijima@shinshu-u.ac.jp
(12)授業への出席	毎回実施する小テストの解答が必須となる。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補助の対象とする事由」により小テストを受験できない場合は、メールで上記アドレスへ代替日・時間を連絡すること。
【教科書】	指定しない
【参考書】	全日本ろうあ連盟著,わたしたちの手話学習辞典 (1),改訂版,ISBN-13 : 978-4904639122 ,全日本ろうあ連盟 ,2015年,2,860円 (税込)